

「紀の輝」の秋まき春どり作型における播種適期

1. はじめに

実エンドウの新品種「紀の輝」は、早生で大莢が収穫可能なため、県内各作型での栽培管理技術の早期確立の要望が高まっています。今回、この品種の秋まき春どり作型での播種時期について検討しました。

2. 試験方法

「紀の輝」を2004年10月10日、25日、11月10日、30日、12月17日、2005年2月5日に播種し、うね幅160cmとして仕立て本数は25本/m（側枝除去）で栽培しました。基肥は10-9-7kg/10a、追肥は10-5-8kg/10aを2回に分施しました。対照品種として「きしゅうすい」を用い同時期に播種しました。

3. 試験結果

開花節位は、「きしゅうすい」では、播種時期が遅いほど低下しましたが、「紀の輝」では、10～11節と一定でした（表1）。

表1 播種時期種日と開花節位、初花房開花日、収穫開始日

品種	播種日 (月/日)	開花 節位 (節)	初花房 開花日 (月/日)	収穫 開始日 (月/日)
「紀の輝」	10/10	10	12/10	4/13
	10/25	11	12/24	4/13
	11/10	11	2/19	4/13
	11/30	10	3/25	4/26
	12/17	11	4/1	5/6
	2/5	10	4/16	5/17
	「きしゅうすい」	10/10	23	1/22
10/25		23	2/26	4/13
11/10		19	3/18	4/22
11/30		16	4/12	4/30
12/17		16	4/19	5/17
2/5		17	4/30	5/17

開花は、10月25日播種で「きしゅうすい」と比べて64日程度早くなりましたが、霜害の影響で収穫開始は同時期となりました。一方、11月10日播種では、開花は28日程度、収穫は9日早まりました。

「紀の輝」は、10月10日播種では1月に霜害を受け減収し、10月25日播種は他区と比べて最も多収となりました（図1）。「紀の輝」の収穫ピークは、10月25日播種で4月中旬、11月10日播種で4月下旬、11月30日播種で5月上旬、12月17日播種で5月中旬、2月5日播種で5月中下旬となりました。

品質については、いずれの区も4月収穫の莢でL莢率は高く、5月収穫の莢では逆に低くなりました（データ略）。

4. まとめ

「紀の輝」の秋まき春どり作型では、霜害や収穫期が5月になるとL莢率が低下する可能性が認められたことから、収量性、莢品質を考慮に入れ、10月25日頃の播種が適当と考えられます。今後も、施肥管理を中心に検討し、栽培管理法を明らかにするよう試験を継続していく予定です。

（園芸部 川西 孝秀）

図1 播種時期と月別収量

